

平成 28 年 7 月 4 日

## 当院 旧産婦人科病舎で発生した火災のお詫びとご報告

京都大学医学部附属病院  
病院長 稲垣 暢也

平成 28 年 7 月 1 日（金）18 時 17 分に当院において発生しました火災について、患者の皆さまや近隣住民の皆さま、また関係者の皆さまに多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

放射線による周囲への影響につきましては、消防署及び本学環境安全保健機構放射線管理部門が測定した結果、外部には拡散していないことを確認しております。

今後は火気等危険物の安全な取扱いを徹底し、再発防止に努める所存でございます。

なお、外来診療は通常どおり行っております。

火災の概要は以下のとおりです。

### 【発生場所】

旧産婦人科病舎 1 階 R I 実験室 R I 低レベル実験室（放射線管理区域内）  
焼失：29 m<sup>2</sup>

### 【経過】

火災覚知	7 月 1 日	18 時 17 分
鎮圧	同日	18 時 48 分
鎮火	同日	22 時 00 分

### 【出火原因】

実験器具（ヒーター） ※推定  
詳細は現在消防署にて調査中

### 【経緯】

研究員（男性 40 歳代）  
薬品開発の研究において、出火前は、継続的な実験をしていた。R I を投与した動物の臓器への分布を分析する実験中。  
出火時は無人だった。

【京都大学環境安全保健機構放射線管理部門による調査】

建物外部の放射線については、自然界と同レベルであることを確認しています。

7月1日 20時30分頃 当該実験室に面した屋外

0.1 マイクロシーベルト/h 以下

23時10分頃 当該実験室内

16 マイクロシーベルト/h

(最も高い南西隅付近)

0.5~1 マイクロシーベルト/h

(他の場所)

管理区域入口

0.08 マイクロシーベルト/h

当該実験室外壁2箇所スミア

自然界と同レベル